

「座間市のアウトリーチ支援 支援現場での実践について」 研修会参加報告

2021年10月12日、小田急線相模大野駅 ボーノ相模大野サウスモール3階セミナールームにて開かれました。参加者は30名、講師は精神保健福祉士の池田陽子さん。

「アウトリーチ支援」とは相談を待ち受けるのではなく、直接出向く支援の形で、国も普及を進めています。座間市の支援は、事業委託を受けた精神保健福祉士が市職員と二人三脚で支援に当たる点に特徴があり、全国的にも珍しいといえます。

【座間市の目的と現状】

生活困窮者自立支援制度の自立相談支援機関におけるアウトリーチ等の充実を行い、社会参加に向けた、より丁寧な支援必要とする方への支援を強化することを目的とします。なお、本事業は生活困窮者自立支援法に基づく事業の一環として実施するものであり、同法に基づく他の事業とあいまって、地域全体で包括的な支援体制の構築を図るものです。

ひきこもりや未受診の方などを、無理に社会へつなげるのではなく本人や家族が安心して生活できるように寄り添って支援を届けることを目的としています。

この支援は、市が国家資格である精神保健福祉士のいる事業者に業務委託、専門相談員は、「ひきこもり」「人間関係がうまくいかない」など生きづらさをもつ人に対し、市職員と一緒に「アウトリーチ」（相談者の自宅などに出向くこと）し、悩みを聴く。支援に最初から最後まで「伴走」する。

市担当者は「職員では根拠をもって答えられないことも答えられ、的確に支援できる」と話す。病院の初診にも同行するなどきめ細かく寄り添う伴走型の支援も安心につながっている、と市は分析しています。10年以上ひきこもりの人の支援にもつながったという。

市ではこれまで、必要に応じて市職員が訪問をしていた。しかし専門家ではないため、相談者が心を開いてくれない場合や、相談者からの質問に根拠を持って答えられないこともあったという。相談員を務めている「相談オフィスわ〜くすけあ」の池田陽子さんは、県精神保健福祉士協会の会長で、市の非常勤職員としての勤務経験もある。池田さんは「市職員では躊躇してしまうような深い部分までしっかりと聞ける。また訪問することで解決の糸口が見つかることもあり、行政では手の行き届かない『グレーゾーン』の支援にもつながっている」と話す。

【アウトリーチ支援の概要】

市では、生活困窮者自立支援の一環として、アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化を行うもので、精神障害者に限らず、経済的な問題、就労の問題、居住の問題、日常生活の問題等本人、家族、支援者から相談があった場合、やれない理由、やらない理由で断らず、生活に困っている相談者に地域で安心して暮らせるようなアドバイスをする。

ひきこもりや未受診の方などを、無理に社会へつなげるのではなく、本人や家族が安心して生活できるように寄り添って支援を届ける。

座間市で昨年8月から始まった「アウトリーチ支援」に、想定を大きく上回る反響がある。専門

相談員が市職員に同行して訪問し、より手厚い支援体制が整ったため、これまで市への相談をためらっていた人からの問い合わせが増えたとみられる。

アウトリーチ支援の役割として、本人の漠然とした不安を解消する。本人の健康な部分を見つけ延ばす。期待を与え過ぎずに、悩み、相談事に共に解決を探る。プランニングをたてる。

【具体的支援例】

- 未受診者にたいする受診先探し ○医療中断者に対する入院先探し
- 就労希望者に対する就労支援、準備支援 ○経済的問題（年金・生活保護受給）
- 金銭管理、生活全般の不安解決 等々・・・
- ◆家族や関係者から相談を受け、相談支援員が必要に応じてアウトリーチ支援を計画、面接を通じて、本人に接するタイミングを計る。また、家族の接し方についてのアドバイスも行います。相談者は本人がいなくても家族から話しを聴きます。（間接支援）

（文責：三富）

2021年10月12日 研修会 アンケート集計

「座間市のアウトリーチ支援 支援現場での実践について」

講師 池田 陽子氏

アンケート回収枚数	24枚	研修会出席者数	30名
参加された方のお立場			
家族	20名	施設関係	1名
当事者	0名	医療関係	0名
行政関係	2名	その他	1名
講演内容について			
良く分かった	24名	少し分かった	0名
あまり分からなかった	0名	無回答	0名
講演はこれからの生活に役立つと思いますか			
大変役に立つ	23名	少し役に立つ	1名
あまり役に立たない	0名	無回答	0名
講演時間について			
丁度良かった	19名	短かった	2名
長かった	1名	無回答	2名

研修会 感想自由記載欄

・細やかな本人中心のすばらしい事業と思う。困窮者全般を対象にしているのがすごい。

座間市の着眼点はすばらしい。これこそ本物の市民支援だと思う。

・本人(当事者)が自信をもって生きていく権利があるとの言葉がうれしく感じた。当事者が減薬して欲しいと思って

も主治医に言いづらいので、どのようにしたら良いかと思う(感じる)。

精神障害に限らず間口を広げて困っている人を支援するのはすばらしい。

- ・アウトリーチ支援の中で、ご本人からの相談をお聞きするときに、なかなか言語化するのが困難な方へどのようなアプローチをなされるかお聞きしたいです(施設関係者)。
- ・座間のアウトリーチ支援の考え方がわかってきた。広く考えた制度であり、厚労省からの補助がある、生活困窮者支援であること。
- ・座間市のアウトリーチ支援の制度が大変な効果を上げていることが良く理解できました。是非自分達の市、行政に提案したい。
- ・池田さんのはぎれの良いお話に、今後どうすればいいのか考えたり、理解することができました。自分の自治体にもアウトリーチ支援を取り入れていきたいです(行政関係者)。
- ・座間市のような仕組み(実践)をしてもらうのに、どのように行政へ要望していけばよいのか。
- ・池田さんのパワーある講演は大変良かったです。池田さんのような方がたくさんいてくださることを希望する。
- ・本人の困り事等についても積極的にかかわってくださっている事等。とても親亡き後についての理解がわかりやすかった。
- ・とても良い講演内容でした。ありがとうございました。
- ・社会資源が有効に使い続ける様、声を上げ続けることの大切さを実感しました。
- ・アウトリーチの必要性を実感しました。
- ・池田氏の話が分かりやすく、現実的な話も含めて理解できた。
- ・具体的な話が聞けてよかった。
- ・PSW だけでなく、行政の方が参加して下さったこと、大変有効だと思いました。どのように自分の住む自治体に働きかけたら良いのかが分かりました。
- ・とても参考になりました。ありがとうございました。

今後、希望する講演内容、講師名

- ・薬の処方について(減薬を医師に言いづらい)
- ・障がい者が高齢になり、障がい支援と高齢者支援の支援違いを知りたい。何が不利益になりますか。
- ・作業所(A型・B型)の運営と本人の希望について。B型作業所の問題点について。1人前の賃金を得られるようにするためにはどうしたらいいのか。難しい課題だと思いますが。
- ・親亡き後の本人の生活支援について。
- ・訪問看護ステーションの実態 小瀬古伸幸さん
- ・本日の講演のように「困ったことを抱えている」人への総合的支援を実施している行政からの報告。
- ・オープンダイアログ 森川すいめい氏

じんかれんへのご意見ご要望

- ・医療支援の拡充情報(自立支援医療の他科診療)、よろしくお願いします。
- ・医療費助成、なかなか市は動いてくれません。県の方でよろしくお願いします。
- ・親亡き後の当事者本人が希望と安心を持って生活するにはどのようなサービスの利用と、本人が安心した心情で生活できるためにはどのようにしていけばいいのか。
- ・本日のような講演会をまた希望します。

(アンケートまとめ:石川)